

2020年7月10日

ピーター・トーマス博士
事務局長
米国海洋哺乳類委員会
4240 East West Highway, Suite 700
Bethesda, Maryland 20814
U.S.A.

米国海洋哺乳類委員会への要請文(和訳)

トーマス博士（事務局長）

私たち、以下署名した沖縄と日本における市民社会の団体は、日米政府による沖縄の辺野古・大浦湾での米軍基地建設計画との関連において、沖縄に生息するジュゴン（以下、沖縄のジュゴン）の保全について、米国海洋哺乳類委員会（MMC）が継続して関心や支援を示してきたことに感謝の意を表します。ジュゴンは沖縄にとって重要な生き物です。世界的な絶滅危惧種や日本の天然記念物というだけではなく、沖縄の文化・歴史上のアイコンです。ニライカナイの神の使いであり、豊穡のしるしであり、そして現在においては、豊かな自然と平和な暮らしを守る沖縄の取組みのシンボルです。私たちは、MMC が、2009年にはハワイのホノルルにおいて、また2014年と15年にはメリーランド州のMMCの本部において、市民社会のメンバーからの懸念を述べる機会を与えてくれたことに感謝しています。またMMCが、国際自然保護連合（IUCN）の海牛目専門家グループが2019年9月に三重で開催したワークショップに財政的支援を行ってくれたことにも感謝しています。ワークショップでは、沖縄とその他の南西諸島地域のジュゴンのための調査計画が作成されました。私たちはその調査計画を最大限に活かしていく決意です。

本日、私たちは、緊急の要請があり、この文書を送っています。私たちは、MMC が米国海洋哺乳類保護法とMMCの2009年度の連邦議会報告書で示した（以下の）同委員会の立場において、米軍基地建設に関連する米国国防総省のジュゴン保護の取組みについて、検証し、コメントすることを要請します。

移設計画が検証を経て、計画案の変更がない場合、同委員会は国防総省による国家歴史保存法のもとで行われる国防総省のジュゴンへの影響の分析について、その分析が入手可能になり次第、検証し、コメントする意向がある。

(p.36)

私たちは、2018年以降、国防総省の分析は入手可能であること¹、そして3つの喫緊の状況が私たちの要請に正当性を与えていると主張します。喫緊の状況の一つは、MMC もすでにご承知のように、2019年12月に国際自然保護連合(IUCN)が、「南西地域」(沖縄を含みます)のジュゴン²を独自の個体群(sub-population)と認定し、ジュゴンを **Critically Endangered** (近絶滅)とレッドリストで位置づけたことです²。これは、沖縄の海で危機的状況にあるジュゴンに対する切実な警告です。IUCN レッドリストでの沖縄のジュゴンの位置づけは、基地建設関連の国防総省の分析を含む多くの調査研究や情報を基にしたものです。IUCN のレッドリストでは、基地建設のための埋立てが沖縄のジュゴンにとっての脅威の一つであるとしています。

二つ目は、2019年12月に、日本政府が、基地建設は当初の予定より少なくとも12年以上遅れ、完成は2030年代になり、予算も当初の3500億円を越える9300億円に膨らむと表明したことです³。日本政府は、2019年1月の段階で、大浦側の基地建設地が非常に軟弱であり(N 価値=0)、設計変更と大掛かりな地盤改良工事が必要であることを認めていました(軟弱地盤の存在は2016年から確認されていました)⁴。改良工事では、71,000本のサンドコンパクションパイルが、深い所では水面から300フィートまで打ち込まれることとなります。今後10年間に亘り改良工事が行われれば、ジュゴンを含む海洋生物に影響を与えるのは必至です。しかし、基地建設にかかる日本政府の環境アセスでは、この地盤改良工事の影響は検証されていませんでした。(よって国防総省の分析にも、地盤改良の影響の検証はありません)

¹ The 9th Circuit Court of Appeals' ruling in favor of the Plaintiffs in August 2017 initiated the Administrative Record Process, and through the process, the DoD released documents pertaining to its analysis, which had not been previously available to the public.

² The IUCN's original assessment of the dugong in the Nansei region was completed in August 2019, and the assessment became public in December in the IUCN Red List. See "Dugong: Dugong dugon (Nansei subpopulation)" at the IUCN Red List. <https://www.iucnredlist.org/species/157011948/157011982>, accessed on May 19, 2020.

³ "Editorials: Delays and cost overrun at Henoko," *The Japan Times*, December 29, 2019. <https://www.japantimes.co.jp/opinion/2019/12/29/editorials/delays-cost-overruns-henoko/#.XsRvaNW2wy4>, accessed on May 19, 2020.

⁴ "EDITORIAL: Henoko project clearly doomed; time to open talks with U.S." *The Asahi Shimbun*, February 24, 2019. <http://www.asahi.com/ajw/articles/AJ201902230024.html>, accessed on May 20, 2020.

最後は、去る 2020 年 5 月に、米国の第 9 巡回控訴裁判所が、国家歴史保存法のもと争われていたジュゴン訴訟において、国防総省勝訴の判決を下したことです。裁判所は「国防総省は、国家歴史保存法 402 条項で求めた手続的要件を果たしており、（基地の建設や運用により）ジュゴンに対して悪影響はないという結論は、恣意的、専断的ではなく、よって裁判所は、連邦地裁による国防総省の略式判決の判断を認める」と判断しました⁵。

私たちは、控訴裁判の審理が、科学的に厳正に行われること、さらには、審理の対象範囲が、工事が開始された 2014 年 8 月以降に辺野古・大浦湾やその近辺からジュゴンが確認できなくなっていることにも広げられ、考慮されることを期待していました。また、このジュゴンの危機的状況を是正するための法的措置が示されることを期待していました。しかし、残念ながら、また当然ながら、この訴訟の審理は、国家歴史保存法の手続き的枠組み内で行われました。それゆえ審理は、2008 年から 2014 年 4 月に国防総省が行った「考慮の手続き」のみに焦点を当て⁶、国防総省の「影響なしの結論」に同意したのです

しかしその結果、非常に混乱した状況に至っています。国防総省の報告書や米国司法の判断が、IUCN の科学的検証により示された沖縄のジュゴンの状況と全く矛盾することになっているのです。沖縄のジュゴンが絶滅の危機とその生息地でのいつ終わるとも分からない基地建設に直面する一方、この矛盾により、国際社会のなかで、国防総省、米国国家歴史保存法、米国司法制度、米国海洋哺乳類保護法、そして MMC のインテグリティや名声が損なわれているのです。

私たちは、この混乱した状況の根源は、沖縄防衛局の欠陥環境アセス(2012 年)と、2014 年 8 月の海上工事の開始以降、沖縄防衛局が必要な緩和措置をきちんと履行してこなかったこと、特にジュゴンへの工事の騒音のモニタリングの不履行にある、と考えます。沖縄防衛局の環境アセスは、辺野古・大浦湾にはジュゴン殆ど生息しておらず、よって基地の建設や運用はジュゴンに影響を与えないと誤った結論を出しました。残念なことに国防総

⁵ *Center for Biological Diversity et al. v. Esper*, No. 18-16836 (9th Cir. 2020).

⁶ The only exception to this was a letter of request sent in April 2018 from late Okinawa Governor Takeshi Onaga to the DoD. See the letter at this site: <https://www.pref.okinawa.jp/site/chijiko/henoko/documents/requestsd.pdf>, accessed on May 19, 2020. The letter was mentioned in the briefs submitted by both the plaintiffs and the DoD to the U.S. 9th Circuit Court of Appeals. The letter described the critical status of the Okinawa Dugong in relation to the construction of the base at Henoko-Oura Bay and request that the DoD consult with the Okinawa prefectural government.

省はその結論を、額面通りに受け入れ、国防総省自らの基地によるジュゴンへの影響の分析に取り入れてしまったのです。また国防総省は、沖縄防衛局による工事音のモニタリングの不履行にも関心を払ってこなかったといえます。

私たちは、いかなる米国連邦機関も、沖縄防衛局の問題ある環境アセスや必要な緩和措置の不履行により、その信用を失ってはいけないと考えます。この状況を是正する、そして沖縄のジュゴンを救う第一歩として、米軍基地建設との関連で国防総省が行ってきたユゴン保全の取組みについて、MMC が検証し、コメントすることを私たちは、要請します。

私たちはこの要請文と一緒に、MMC の検証とコメントの手続きに役立つことを期待し、以下の文書を添付します。1) *The USMC Findings April 2014*, 2) *An Anthropological Study of the Significance of the Dugong in Okinawa Culture* (Welch 2010 ed), 3) *The SuMMO Project Final Report* (2013), 4) 沖縄県の埋立承認取消し文書、5) 沖縄県知事からの国防総省への手紙 2 通、6) NGO の報告書です。最初の 3 つの文書は国防総省の文書です。最後の NGO の報告書は、国防総省の報告書 *The USMC Findings April 2014* に対する反論となります。NGO 報告書では、1) 沖縄のジュゴンの危機的状況の説明、2) 「影響を受ける可能性のある海域 (APE) にジュゴンが存在する可能性は非常に低い」とする国防総省の主張に対する反論、そして 3) 沖縄防衛局による工事騒音のモニタリングの不履行についての議論を示すものです。

もし私たちに対する質問や要望があれば、どうぞお伝え下さい。

敬意をこめて

吉川秀樹

Okinawa Environmental Justice Project 代表

ジュゴン保護キャンペーンセンター 国際担当

yhidekiy@gmail.com

賛同団体・グループ

- 1 ダイビングチーム・レインボー
- 2 ジュゴンネットワーク沖縄
- 3 じゅごんの里
- 4 ジュゴン保護基金
- 5 Okinawa Environmental Justice Project
- 6 沖縄環境ネットワーク
- 7 沖縄リーフチェック研究会
- 8 奥間川流域保護基金
- 9 北限のジュゴン調査チーム・ザン
- 10 泡瀬干潟を守る連絡会：
- 11 ジュゴン保護キャンペーンセンター
- 12 沖縄国際人権研究会
- 13 いのちを守るナイチンゲールと医療者と卵の会
- 14 東アジア共同体研究所 琉球・沖縄センター
- 15 辺野古ブルー
- 16 民宿ヤポネシア
- 17 名護デモクラシー
- 18 「ヘリパッドいらない」住民の会
- 19 ヘリ基地いらない二見以北十区の会
- 20 命どう宝を継承する会
- 21 沖縄平和市民連絡協議会
- 22 平和の礎のマブイ（魂）にノーベル平和賞を！実行委員会
- 23 基地・軍隊を許さない行動する女たちの会
- 24 合意してないプロジェクト Project Disagree
- 25 ヘリ基地反対協議会
- 26 一般財団法人わびあいの里
- 27 Veterans for Peace Ryukyu-Okinawa
- 28 奄美の森と川と海岸を守る会
- 29 海の生き物を守る会
- 30 環境ネットワーク 奄美
- 31 イルカ&クジラ・アクション・ネットワーク
- 32 日本環境法律家連盟

- 33 日本湿地ネットワーク
- 34 日本自然保護協会
- 35 環瀬戸内海会議
- 36 辺野古・高江を守ろう！NGO ネットワーク
- 37 ラムサール・ネットワーク日本
- 38 自然と文化を守る奄美会議
- 39 愛の会愛東 Ainokai Aitou
- 40 愛隣センター
- 41 フィリピン AKAY プロジェクトをともに創る会
- 42 アバカダカユマンギ地域発展基金・戦争と貧困に反対する市民連
AKCDF-MAPALAD KA
- 43 全港湾関西地方大阪支部
- 44 不戦へのネットワーク
- 45 ぶどうの木保育園
- 46 東アジア共同体研究所
- 47 ファミリホーム すずらん
- 48 ファミリーホーム 山そう園
- 49 ファミリーホーム やまゆり
- 50 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会
- 51 辺野古に基地を絶対つくらせない大阪行動
- 52 辺野古の海に基地をつくらせない神戸行動
- 53 京都市民福祉センター
- 54 茗荷山 天保寺（宗教法人）
- 55 野の百合保育園
- 56 NPO 法人 アクティブセンターうだ
- 57 NPO みょうがむら
- 58 NPO 山艸（さんそう）園家族
- 59 NPO わらべ村
- 60 大萩茗荷村（おおはぎみょうがむら）
- 61 おひさまファーム竜土自然農園
- 62 山口県平和運動フォーラム
- 63 社会民主党宮崎県連合
- 64 社会福祉法人 修光学園

- 65 Stop! 辺野古埋め立てキャンペーン
- 66 STOP! 辺野古新基地建設! 大阪アクション
- 67 株式会社 Straight
- 68 沖縄の会 (基地のない平和で豊かな沖縄をめざす会)
- 69 八日市めぐみ保育園
- 70 ゆんたく高江
- 71 平和と民主主義をめざす全国交歓会